

オブリガータ

OBRIGADA

PORTUGAL



“オブリガータ”とは、ポルトガル語で「ありがとう(女性が言う場合)」の意味です。
男性が言う場合は、オブリガード(Obrigado)となります。

2010年6月発行

今回の内容 <日本・ポルトガル修好150周年>
<日本とポルトガルの交流史>
<大分で感じるポルトガル>
<アベイロからの便り> ほか



大分・日本ポルトガル協会



〒870-8504 大分市荷揚町 2-31
大分市企画部文化国際課 国際化推進室内
TEL097-537-5719 (FAX 097-536-4044)

日本・ポルトガル修好 150 周年

~ Encontro Amizade Futuro ~
出会い 友情 未来
1543 1860 2010

今年日本とポルトガルが近代的な外交関係を樹立して150周年を迎えます。

両国の交流の始まりは、1543年の種子島鉄砲伝来にまで遡りますが、ポルトガルは欧州諸国の中で、日本と最も長い歴史を有する国です。こうした伝統ある両国の関係は、1860年8月3日の修好通商条約により、今日に繋がる近代的な関係を樹立し、新しい時代を迎えました。

日本・ポルトガル修好通商条約

正式名称

日本語:「日本國葡萄牙國修好通商条約」

経緯

1639年の江戸幕府の鎖国政策以来、両国国交は途絶えていましたが、1858年に米、蘭、露、英、仏が「5カ国条約」を調印。同時期に、蘭の領事が幕府に対して葡国との条約調印を仲介し、1860年7月にポルトガル使節が訪日し、幕府に対して、6カ国目となる条約締結を正式に申し入れました。

内容

外交機関の設置、開港地の指定等、遊歩規定(外国人が自由に移動できる範囲の取り決め)等、全24条。

条約原本

日本側の原本は、1923年の関東大震災により焼失。ポルトガル側は、ポルトガル外務省公文書館に原本を保存。



150周年ポスター(在ポルトガル日本国大使館HPより)
ポスターのキーワードは、
『1543 出会い 1860 友情 2010 未来』



日本とポルトガルの交流史



中世～近世

- 1543年 ポルトガル人が種子島に漂着
- 1549年 イエズス会のフランシスコ・ザビエルが鹿児島に到着
- 1550年 ポルトガル船が初めて平戸に到着（本格的な南蛮貿易のはじまり）
- 1582年 天正遣欧少年使節団が日本を出発（1584年リスボン到着 1590年帰国）
- 1639年 ポルトガル船の入港禁止

幕末～戦前

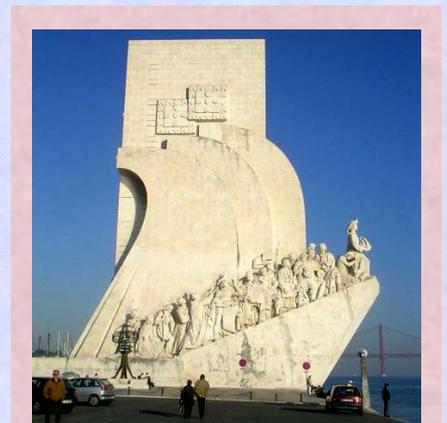
- 1860年 ポルトガル使節の日本来航 7月
- 1860年 日本・ポルトガル修好通商条約調印 8月
- 1862年 幕府の遣欧使節団がリスボン到着（通詞として福沢諭吉も参加）
- 1866年 在日ポルトガル公使館開設
- 1880年 在ポルトガル日本国公使館開設（在フランス日本国公使が兼任）
- 1899年 在日ポルトガル領事館開設 神戸
- 1916年 東京外国語大学に日本初の葡語学科設置
- <戦時中> 第二次世界大戦中、日本軍のティモール占拠により両国関係は一時的に断絶

戦後～現代

- 1953年 日本ポルトガル外交関係再開、在日ポルトガル臨時代理公使着任
- 1954年 在ポルトガル日本国臨時代理公使着任
- 1958年 小林清氏、横地森太郎氏がそれぞれ柔道指導、水泳指導のため訪葡
- 1959年 在ポルトガル日本国大使館設置 公使館からの昇格
- 1969年 日本に日本ポルトガル協会が設立、徳島市とレイリア市が両国間初の姉妹都市提携
- 1971年 ポルトガルにポルトガル日本商工会議所が設立
- 1978年 大分市とアベイロ市が姉妹都市提携（日葡間で3番目）
- 1981年 ポルトガルにポルトガル日本友好協会が設立
- 1982年 ポルトガル日本人会が設立
- 1990年 シルヴァ首相の来日 大阪花博
- 1998年 天皇皇后両陛下のポルトガルご訪問 リスボン海洋博
- 2003年 日葡友好460周年
- 2005年 サンパイオ大統領の来日 愛知/愛・地球博
- 2010年 日本・ポルトガル修好150周年



「発見のモニュメント」前の広場に描かれた世界地図には、ポルトガルが新しい国を発見したときの年号が記されている。ちなみに、日本が発見されたのは1541年…「鉄砲伝来」の2年前となっている。



発見のモニュメント

リスボン市西部のテージョ川岸にある大航海時代を記念した記念碑。高さ52メートルのコンクリート製で、1940年の万博博覧会の象徴として制作された。

記念碑は、エンリケ航海王子を先頭に、ヴァスコ・ダ・ガマ（航海士）やルイス・デ・カモインス（詩人）など、ポルトガルの英雄や偉人30名が、東西に分かれてずらりと並んでいる。（写真は西側）

大分で感じるポルトガル



大友宗麟像 / 大分駅前広場



聖フランシスコ・ザビエル像
/ 大分市(大手公園前)



育児院と牛乳の記念碑
/ 大分市(遊歩公園)



西洋医学発祥記念像
/ 大分市(遊歩公園)



伊東ドン・マンショ像
/ 大分市(遊歩公園)



西洋音楽発祥記念碑
/ 大分市(遊歩公園)



切支丹洞窟礼拝堂跡
/ 竹田市殿町



ルイス・デ・アルメイダ像
/ 大分市(大分市医師会立
アルメイダ病院)



西洋劇発祥記念碑
/ 大分市(遊歩公園)



国崩し(佛狼機砲)のレプリカ
/ 臼杵市(臼杵城址公園)



ポルトガル帆船モニュメント
/ 大分市(ガレリア竹町ドーム広場)



白壁にアズレージョが映える「久家の大蔵」
/ 臼杵市浜町

AVEIRO アベイロからの便り

BOA TARDE! (こんにちは!)

ワールドカップ南アフリカ大会の開催で世界中、盛り上っていますね。

もちろん、アベイロも熱狂しています!

今回は2つの話題をお届けします。

上の写真は、アベイロにあるサッカースタジアムです。とってもカラフルでキュートでしょう!「EURO2004」も開催されました。

下の写真は、BUGA(ブーガ)という無料のレンタルサイクルです。誰でも気軽に乗ることができるので、とっても便利です。外国からの観光客もパスポートのコピーと引き換えに借りることができるのですよ!

MUITO OBRIGADA! (どうもありがとう!)



レポートしてくれたのは、アベイロ市国際関係室の“ヴェラ・レイス”さん

ヴァモス! ポルトガル世界遺産

ベレンの塔 (文化遺産 / 1983年登録)

ベレンの塔は、16世紀にマヌエル1世によってヴァスコ・ダ・ガマのインド航路発見の偉業を称えて建てられた石造りの塔。リスボン西部のテージョ川河口にあり、リスボン港に出入りする船を監視する要塞としての役割も果たしていたため、内部には砲台や水牢も有している。マヌエル様式の優美な外観から「テージョ川の貴婦人」という呼び名があり、長い航海を終えて帰ってくる船乗りたちを優しく迎える故郷のシンボリックな存在でもあった。



アルト・ドウロ・ワイン生産地域

(文化遺産 / 2001年登録)

ポルト市の北約100キロ、ドウロ川の上流域に広がるアルト・ドウロ・ワイン生産地域は、自然環境を上手に生かした「ブドウの段々畑」として有名。総面積が25万haの広大なこのブドウ畑は、斜面を段々畑にして作られてきたものであり、この段々畑を支える石壁の総延長は数万kmにも及ぶ。ここで産出されるワインは、『ポート・ワイン』として世界的に有名である。

【編集後記】

今回の「オブリガーダ」は、いかがでしたでしょうか。日・葡修好150周年を機に、身近なところでポルトガルを意識してみるのも面白そうですね。情報、お知らせなどありましたら、ぜひ事務局までお寄せください。

大分日本ポルトガル協会事務局